

博物館学校地域連携教育支援事業の出前授業と子どもの意識

- 第5学年「流水の働き」において -

中村考志^A, ○錦生正幸^B, 杉江喜寿^C, 中村孝^D, 佐伯英人^E

NAKUMURA Takashi, KINSEI Masayuki, SUGIE Yoshihisa, NAKUMURA Takashi, SAIKI Hideto
岩国市立装港小学校^A, 岩国市立東小学校^B, 周南市立鹿野中学校^C, 山口市立二島中学校^D, 山口大学教育学部^E

【キーワード】 博物館学校地域連携事業, 出前授業, 子どもの意識, 第5学年, 流水の働き

1 研究の目的

2013 年度の博物館学校地域連携事業の1つとして第5学年「流水の働き」の内容で出前授業を実施した。本研究の目的は、出前授業を実践し、出前授業を受けた子どもの意識をもとに出前授業の有効性を議論することである。

2 授業実践

出前授業は岩国市立灘小学校と宇部市立岬小学校で実施した。灘小学校では3学級(A組, B組, C組)で学級ごとに各1時間(45分間)実施し、また、岬小学校では2学級(D組, E組)合同で2時間実施した。両校で実施した内容は、図1の「洪水を防ぐモデル実験装置」を使って、子どもに川が氾濫しないように工夫させる活動であった。この活動は1時間(45分間)実施した。岬小学校では、上記の活動の他に、山口市を流れる樫野川の上流、中流、下流の石を触って観察させたり、川のようにすをスライド(写真)で見せたりする活動を1時間(45分間)実施した。各活動の詳細な内容は、中村ほか(2014)の「Ⅲ-4-(7). 流水のはたらきとたい積作用」に掲載している(p.28-29)。

3 調査の方法, 分析の方法

調査には質問紙法を用いた。質問紙では表1の質問項目を設定し、「出前授業を受けて思ったことを教えてください」という教示を行い、5件法(とてもあてはまる, だいたいあてはまる, どちらともいえない, あまりあてはまらない

い, まったくあてはまらない)で回答を求めた。調査は出前授業終了時に行った。調査の対象は灘小学校の2学級(A組, B組)と岬小学校の2学級(D組, E組)である。5件法の「とてもあてはまる～まったくあてはまらない」を5点～1点とし、平均値と標準偏差を算出した。また、天井効果の有無を確認した。

4 結果, 考察

表1に平均値と標準偏差を示す。表1のすべての質問項目で平均値と標準偏差の和が最高得点(5点)を超えており、天井効果がみられた。このことは、出前授業を受けた子どもの意識が概ね良好であったことを示しており、出前授業の有効性が示唆されたものといえる。

文献

中村考志ほか：(2014)「平成25年度博物館学校地域連携事業報告書～学校・地域と博物館をつなぐ～」, 山口県立山口博物館, 71pp.

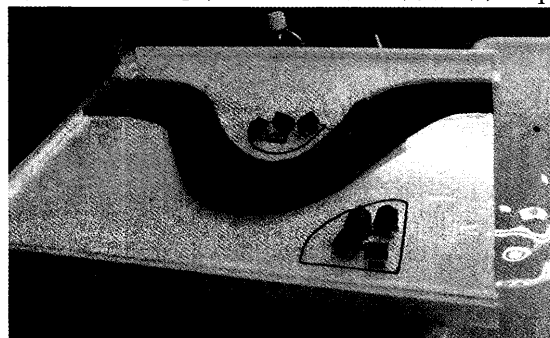


図1 洪水を防ぐモデル実験装置

表1 子どもの意識の平均値と標準偏差

番号	質問項目	平均値(標準偏差)			
		A組	B組	D組	E組
①	出前授業はよかった	4.89(0.32)	4.92(0.27)	4.70(0.66)	4.46(0.97)
②	出前授業は楽しい	4.75(0.52)	4.85(0.46)	4.65(0.75)	4.23(1.01)
③	これからも出前授業をやってほしい	4.74(0.53)	4.88(0.44)	4.74(0.56)	4.08(1.12)
④	出前授業を受けて山口博物館に行ってみたくと思った	4.18(0.86)	4.75(0.68)	4.60(0.68)	3.92(1.23)

min=1 max=5